

## さばきを下さない主イエス

ヨハネ福音書7:53-8:11

【新改訳2017】

- 7:53 「人々はそれぞれ家に帰って行った。」
- 8:1 イエスはオリーブ山に行かれた。
- 8:2 そして朝早く、イエスは再び宮に入られた。人々はみな、みもとに寄って来た。イエスは腰を下ろして、彼らに教え始められた。
- 8:3 すると、律法学者とパリサイ人が、姦淫の場で捕らえられた女を連れて来て、真ん中に立たせ、
- 8:4 イエスに言った。「先生、この女は姦淫の現場で捕らえられました。」
- 8:5 モーセは律法の中で、こういう女を石打ちにするよう私たちに命じています。あなたは何と言われますか。」
- 8:6 彼らはイエスを告発する理由を得ようと、イエスを試みてこう言ったのであった。だが、イエスは身をかがめて、指で地面に何か書いておられた。
- 8:7 しかし、彼らが問い続けるので、イエスは身を起こして言われた。「あなたがたの中で罪のない者が、まずこの人に石を投げなさい。」
- 8:8 そしてイエスは、再び身をかがめて、地面に何かを書き続けられた。
- 8:9 彼らはそれを聞くと、年長者たちから始まり、一人、また一人と去って行き、真ん中にいた女とともに、イエスだけが残された。
- 8:10 イエスは身を起こして、彼女に言われた。「女の人よ、彼らはどこにいますか。だれもあなたにさばきを下さなかつたのですか。」
- 8:11 彼女は言った。「はい、主よ。だれも。」イエスは言われた。「わたしもあなたにさばきを下さない。行きなさい。これからは、決して罪を犯してはなりません。」

### 【祈りながら考えよう】

- (1) ヨハネ7:53-8:11は大括弧〔〕で囲まれている。それはなぜですか。
- (2) 律法学者とパリサイ人たちの訴えはどうして「挟み撃ち論法」となりますか。
- (3) この婦人に「石を投げなさい」と言われたが、どういう条件をつけられましたか。
- (4) イエスは罪のないお方であるのに、どうして婦人にさばきを下さなかつたのですか。

### 【解説】

#### (1) 真正性についての論議

ヨハネ7:53-8:11の箇所は、新改訳2017では大括弧〔〕の中に入れられている。その理由は、この箇所が最古のギリシャ語訳写本のいくつかに見られない等の理由で聖句の真正性を論議されてきた。しかし、多くの聖書学者たちは真正性に問題はないとしている（アウグスチヌス（354-430）、カルヴァン（1509-1564）、メランヒトン（1497-1560）、ライル（1816-1900）、尾山令仁等の神学者）。

#### (2) 人の子には枕するところもない

イエスはオリーブ山に行かれた。そして朝早く、イエスは再び宮に入られた。人々はみな、みもとに寄って来た。イエスは腰を下ろして、彼らに教え始められた。（1-2節）

この節は7章の最後の節と密接な関係がある。そのつながりはこの2つの節を継ぐように結びつけるとよりはっきりする。「人々はそれぞれ家に帰って行った（が）、イエスはオリーブ山に行かれた」。主がかつて語られた通りである。「狐には穴があり、空の鳥には巢があるが、人の子には枕するところもありません。」（マタイ8:20）

主イエスは、仮庵の祭りにエルサレムへ来られ、そこで人々と議論され、力強い説教をされた。1日が終わると、人々はそれぞれ家へ帰って行ったが、主イエスはいつもオリーブ山へ行って、そこで夜を過ごされたようである。

そして朝になると、エルサレムに来られ、宮の外庭へ来られた。すると、多くの人が主のみもとに近寄って来て、主は彼らを教えておられた。

#### (3) イエスを告発するためのわな

その時、律法学者（旧約聖書の律法を筆写し、その律法を教えた人々）とパリサイ人（厳格な律法主義者たち）が、ひとりの婦人を引立てて来て、姦淫の現場で捕らえたのだと言い、主イエスにこう質問し始めた。

「先生、この女は姦淫の現場で捕らえられました。モーセは律法の中で、こういう女を石打ちにするよう私たちに命じています。あなたは何と言われますか。」（4-5節）

律法学者とかパリサイ人と言えば、当時はりっぱな人として、尊敬を集めていた人々である。ところが、彼らがしていることはどういうことか。彼らは姦淫の現場でその婦人を捕らえてきたのか。もしもそうなら、その相手の男性はどうしたのか。また、彼らが本当に律法に従う気持ちがあったのなら、モーセの律法に記されていることが何なのかを知っていたのであるから、その通りにしたらよかつたはずである。

彼らはどうやら本当に姦淫の現場で捕らえた婦人を連れて来たと言うよりも、彼らが仕組んでおいたところにはまった婦人を餌にして、主イエスを陥れんがために、彼女を引立てて来たと言った方が真相ではなかつたと思われる。聖書は、確かに、「彼らはイエスを告発する理由を得ようと、イエスを試みてこう言ったのであった。」と記している。

#### (4) 挟み撃ち論法

どうしてこのような質問が、告発する理由となる答えを引き出すことができるのか。①もしも主イエスがモーセの律法通り死刑にすることを主張したとしたら、ローマの法律を無視し、ローマへの反逆罪として訴えようとしたことになる。当時、ユダヤ人には死刑を決定する権限が与えられていなかったからである。

また、日ごろ取税人や罪人に救いの手を差し出しておられ、その友として来られたと言っておられた主が、ここで姦淫の罪を犯した婦人を断罪したとしたら、首尾一貫性のなさを、至る所で触れ回るつもりであったとも考えられる。

②そして、もしも「赦してやれ」とおっしゃりでもしようものなら、モーセの律法を破る者として訴えるつもりであったのである。どちらに転んでも断罪しようという、いわば「挟み撃ち論法」によつたわけである。

#### (5) 何も答えない

そのような彼らの悪意を持った言動に対して、主イエスはどのような態度を取られたか。

「だが、イエスは身をかがめて、指で地面に何か書いておられた。」（6節）主は何も言われなかつた。それは、答えられなかつたからではなく、答える必要がなかつたからである。

ある人々は、ここで主イエスが地面に何を書いておられたのかに興味を持ち、詮索しようとする。しかし、ここで大事なことは、何を書いておられたのかということではなく、彼らの質問に答えなかつたということである。

何を書いておられたのかということは聖書に記されていないから、分からない。分からないことを詮索することは、余り意味のあることではない。

#### (6) 罪のない者が石を投げなさい

ところが、主がしゃがんで何かを地面に書いておられる姿を見て、訴える者たちは、主が答えに窮したのだと早合点し、こんなことが答えられないのかと言わんばかりに、答えをせがんだ。そこで、主は立ち上がり、こう言われた。

「あなたがたの中で罪のない者が、まずこの人に石を投げなさい。」

そして、またしゃがんで、地面に何かを書き続けられた。主は答えに窮して、答えることを避けられたのではない。彼らの質問にそのまま答えることは、ただ彼らの思うつぼにはまることをご存じであり、悪意のある質問に答える必要を感じられなかつたからである。

しかし、余りにもしつこく彼らが問い続けたので、ついに主ははっきり仰せられた。「この人に石を投げなさい。」主は、モーセの律法をいい加減にしてよいとは決して考えておられない。しかし、主はそこにはっきりと1つの条件を付けておられる。「あなたがたの中で罪のない者」でなければならない。

人を裁くことができる資格は、自ら罪のない者でなければならない。自分の心にやましきがあるのに、他の人を裁くことなどできるのか。しかし現実には、自分が罪を持っているにもかかわらず、いや、自分が持っている罪を隠すために、良心の呵責をごまかすために、人を平気で裁こうとすることがある。

#### (7) 年長者たちから、ひとりひとり去って行く

この権威ある主の言葉を聞くと、この婦人を告発した人々は良心のとがめを受けた。言うべき言葉がなくなつた彼らは、ひとり、またひとり、とその場を立ち去り始めた。主の権威ある御言葉によって、裁こうとした者と裁かれようとした者とが主従とを逆にしてしまった。

「神のことは生きていて、力があり、両刃の剣よりも鋭く、たましいと霊、関節と骨髄を分けるまでに刺し貫き、心の思いやはかりごとを見分けることができます。」（ヘブル4:12）と言われている通りである。

#### (8) わたしもあなたにさばきを下さない

こうして、主イエスとその婦人だけになった時、主はその婦人にこう言われた。

「女の人よ、彼らはどこにいますか。だれもあなたにさばきを下さなかつたのですか。」

その婦人が、「はい、主よ。だれも。」と答えると、主はこう言われた。

「わたしもあなたにさばきを下さない。行きなさい。これからは、決して罪を犯してはなりません。」

ここにいた人々の中で、人を裁く権限を持っていたのは、主イエスだけであつた。主はこの後で、ご自分の無罪性をはっきり主張しておられる。「あなたがたのうちのだれが、わたしに罪があると責めることができますか。」（ヨハネ8:46）。神の御子だけが、人を裁く権限を持っておられる。それなのに、主は「わたしもあなたにさばきを下さない。」と言われた。人を裁く権限のない者が人を裁こうとし、人を裁く権限を持っておられるお方が人を裁こうとしないこの対比、いかに異なっていることか。

#### (9) なぜさばきを下されなかつたのか

主イエス・キリストはなぜこの婦人にさばきを下されなかつたのか。彼女の罪をご自分が背負われ、彼女が受けなければならない刑罰をご自分が引き受けられることによって、彼女を赦してくださるためである。「正しい方が正しい者たちの身代わりになられたのです」（1ペテロ3:18）。何とありがたいことであろう。